

令和 8 年 2 月 4 日

令和 7 年度の更新研修における青森県農薬管理指導士の更新テストの解答について

＜更新テストについて＞

三者択一形式の選択問題（10 問）で更新テストを実施し、7 問以上の正解者を合格（更新）とします。WEB 上での合格者発表はしませんので、各自で解答を御確認ください。

なお、合格者への認定証発送は 2 月中を予定しております。

問 1 農薬の登録について、誤っているものを 1 つ選びなさい。（正解②）

- ① 平成 30 年に農薬取締法が改正され、農薬の再評価制度が導入されている。
- ② 登録された農薬は、5 年間の有効期間があり、期限内に更新しなければならない。
- ③ 農薬のリスク評価に際しては、ミツバチや蚕などの有用生物、水域の生活環境動植物への影響も評価対象となっている。

問 2 農薬使用基準について、誤っているものを 1 つ選びなさい。（正解①）

- ① 残留農薬基準値が 0.01ppm であることが規定されている。
- ② くん蒸・航空機・ゴルフ場での農薬使用に当たっては、農薬使用計画書を提出しなければならないことが規定されている。
- ③ 農薬の表示事項を遵守することが規定されている。

問 3 農薬ではない除草剤について、誤っているものを 1 つ選びなさい。（正解①）

- ① 家庭菜園での栽培や公園等での植栽管理には、使用しても問題ない。
- ② 果樹園地内や水田畦畔等の除草には、使用できない。
- ③ 農薬の登録番号は表示されていない。

問 4 農薬の使用後の行動について、誤っているものを 1 つ選びなさい。（正解③）

- ① 殺虫剤と展着剤を使用したので、それぞれの商品名、希釈倍数、使用した日時や場所などを帳簿に記載する。
- ② 農薬散布後はタンクや配管等に薬液が残っており、次回散布時に混入することを防ぐため、使用後は、散布器具を丁寧に洗浄する。
- ③ 使用後、一時的に余った農薬は、成分の分解や変質を防ぎ、品質を持続させるため、空き瓶などに一時的に移し替えて冷蔵庫に保管する。

問5 急性参照用量（ARfD）の記述として、正しいものを1つ選びなさい。（正解①）

- ① その農薬を人が24時間又はそれより短い時間で経口摂取した場合に健康に悪影響を示さないと推定される一日当たりの摂取量のこと。
- ② その農薬を人が一生涯に渡って、毎日摂取し続けたとしても危害を及ぼさないと見なせる量のこと。
- ③ 定められた使用方法（使用回数、収穫前日数、使用濃度）で作物に農薬を使用した場合、収穫時の作物に残留する農薬の濃度のこと。

問6 同じ農薬登録（使用方法）と誤解しやすい農作物に係る記載について、誤っているものを1つ選びなさい。（正解②）

- ① 「トマト」と「ミニトマト」は異なる農薬登録がされている作物である。
- ② 「きく」と「しゅんぎく」は同じ農薬登録がされている作物である。
- ③ 見た目が同じでも、収穫部位の大小や、収穫部位によって農薬登録は異なる。

問7 令和5年度における全国の農薬事故の状況等について、正しいものを1つ選びなさい。（正解③）

- ① 人よりも、農作物に対しての事故件数が多かった。
- ② 農薬を水路や河川に流出又は廃棄させたことによる魚類への被害の発生はなかった。
- ③ 土壌くん蒸剤（クロルピクリン剤・劇物）の使用をした時に、適切に被覆しなかったこと等から近隣の住民が体調不良を訴える事故が発生した。

問8 農薬のドリフト対策について、誤っているものを1つ選びなさい。（正解③）

- ① 異なる品目の作物が栽培されている場合は、畝間を一定以上離して緩衝地帯を設けること、ネットや被覆資材を設置することなどの対策を実施する。
- ② 農薬散布する際は、周辺への影響が少ない天候や時間帯に散布し、風向きやノズルの向きにも注意する。
- ③ 粉剤や液剤等はドリフトが少ない剤型の農薬なので、風が強い場合はそれらを選択して使用する。

問9 農薬のローテーション散布について、誤っているものを1つ選びなさい。（正解②）

- ① 薬剤抵抗性・耐性は、農薬の過剰な使用や連用などによって発達が促進される。
- ② IRAC コードは殺菌剤、FRAC コードは除草剤の分類表であるため、農薬の使用に当たって参考とする。
- ③ 異なる農薬の名称でも、RAC コードの分類が同じものがある。このため、ローテーション散布する際は、RAC コードが異なる農薬を選択する。

問 10 植物防疫に係る記載について、誤っているものを1つ選びなさい。(正解③)

- ① 総合防除において、農薬の使用は手段の一つである。また、農薬の使用による薬剤抵抗性・耐性の発達を遅らせるためにも、総合防除に取り組むことが重要である。
- ② 病害虫の発生や防除方法等が記載された「発生予報」等の予察情報を県が発表しているため、防除の際に参考とする。
- ③ 総合防除では殺虫剤・殺菌剤の使用について定めたものであり、概念が異なる I P M では補完的に除草剤の使用が定められている。